

学生確保の見通し等に関する資料

大分大学大学院教育学研究科教職開発専攻
修業年限：2年
入学定員：10名
収容定員：20名

1 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生確保の見通し

【定員充足の見込み（概要）】

本学が設置する予定の教職大学院の学校経営コースの定員を6人に設定しており、大分県教育委員会からの長期派遣研修制度を利用し恒常的に6人の派遣受入予定である。また、教職実践コースの定員は4人に設定しており、本学部から進学するストレートマスター4人の入学が見込まれる。

【定員充足の根拠となる調査結果の概要】

本学が設置する予定の教職大学院に対するニーズを把握するために、平成26年8月に、大分県内の小学校、中学校、特別支援学校に勤務する現職教員を対象に調査を実施した。調査結果を見ると、小学校と中学校に共通して主に40歳代と50歳代の教員に、学校経営コースへのニーズがあり、学校経営コースへの希望者は65人となっている。同様に、20歳代、30歳代、そして特に40歳代の教員に教職実践コースへのニーズがあり、教職実践コースへの希望者は183人となっている。

また、教職大学院の1期生となる可能性がある本学部3年生を対象として平成27年2月に実施した進学希望調査では、卒業後直ちに教職実践コースへの進学を希望する学生が3人いる。さらに、教員採用試験に不合格だった場合に大学院に進学したいと答えた学生が7人、何年か学校現場を経験した後の進学を希望する学生が2人いる。学生なりに自分の近い将来のキャリアを見通した上でのニーズが存在していることが窺える。

本学が教職大学院の設置を正式に公表したのは平成26年11月であり、学部の在学生に対する周知が必ずしも十分でないという事情はあるものの、現状においても、大学のホームページ（トップページ）に「新学部等設置構想」をアップロードするなどして周知に努めており、今後も在学生に対する広報を強化していく。また、大分県では、学部4年次で教員採用試験に合格した者で、さらに大学院での修学を希望する場合は、採用時期を最大2年間延期できる仕組み、同様に、大学院1年次で合格した者で、大学院修了まで修学を希望する場合は、採用時期を最大1年間延期できる仕組みが整えられており、これらの措置の存在についても在学生に周知徹底する。さらに、教職大学院設置と同時にスタートする

予定の小学校教員養成に重点化した新しい「教育学部」（仮称）における学生教育を通じたニーズの掘り起こしに努めていく。

以上のことから、4人程度のストレートマスターを確保できると考えられる。

【学生納付金の設定の考え方】

学生納付金については、これまでの修士課程と同様の額を設定する。

入学金 282,000円

授業料 538,800円(年額)(前期267,900円・後期(前期267,900円)

② 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定含む）

学生確保の取り組みとしては、入試日程の改善や広報活動の充実に努めている。特に、広報活動については、大学院進学説明会を複数回実施したり、教職関連雑誌に修了者の声を掲載して、本研究科の魅力をアピールしたりしている。また、現役の大学院生との懇談会を開催して、志願者確保の方策に関する意見を聴取し、その内容を大学院進学説明会に反映させるなどの取り組みも行っている。

現職教員の志願者の確保の方策としては、大分県教育委員会に出向いて現職教員派遣の依頼をしたり、現職教員志願者の動向についての聞き取り調査を行ったりしている。

2 人材需要の動向等社会の要請

①【人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）】

学部教育で修得した学校教育の基本的知識ならびに学校教育現場における教師としての経験や知見を土台に、大学院における「理論」の学習と学校における「実践」の経験の往還を通じた高度の実践的指導力を習得させることによって、①新しい学校づくりにおいて指導的役割を果たし得るスクールリーダー（管理職等）の養成（学校経営コース）と、②新しい学びや学校現場での今日的教育課題に対応し得る教員の養成（教職実践コース）を目的とする。

②【①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠】

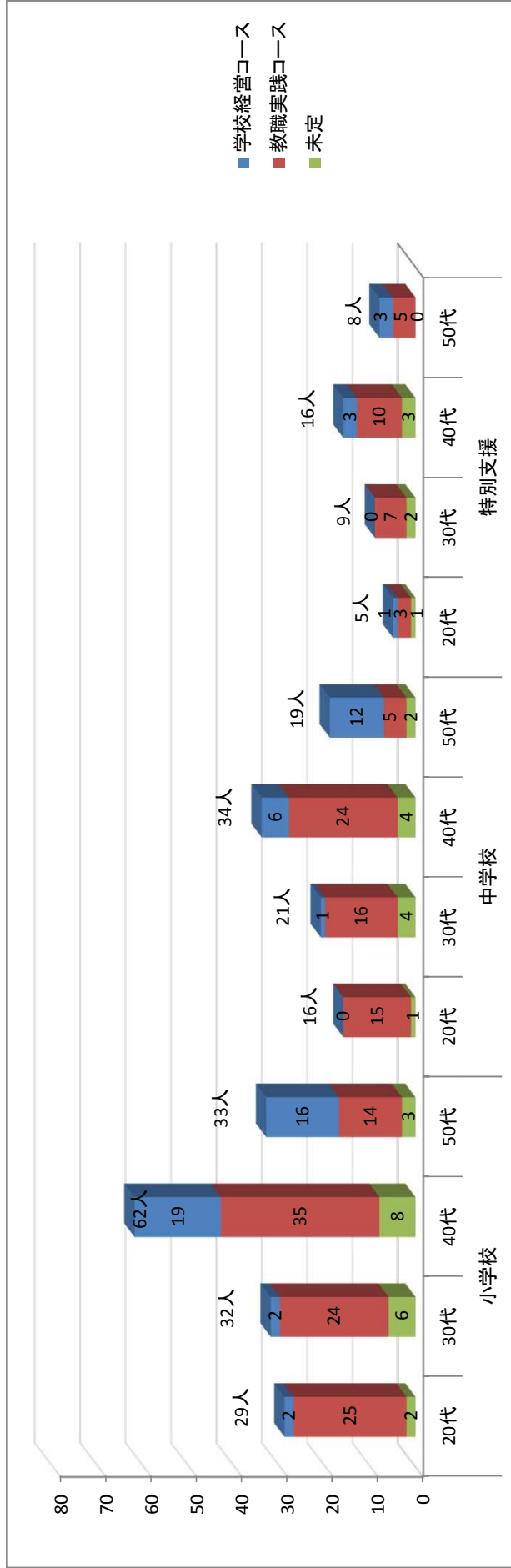
大分県においては、「大分県公立学校教職員の人材育成方針（平成23年10月 大分県教育委員会）」において「教員の大量退職への対応」、「県内大学等の教員養成機関と連携し、県が求める教員の養成に資するための方策について協議・検討を行う。」ことを挙げている。

加えて、平成24年11月に教育委員会から出された「目標達成に向けて組織的に取り組む『芯の通った学校組織』推進プラン」を実行していく上で、中核となる学校管理職の育成プログラムの重要性が高まっている。「一定数の学校管理職候補者を確保するとともに、有望な学校管理職候補者を見極め、育成し学校管理職になる決意を促すプロセス」について、大分県における平成32年からの教職員の大量退職を迎えるにあたり、本学における教職大学院での学校管理職養成する学校経営コースに対する期待は大きい。

また、平成19年度に開始された全国学力・学習状況調査の結果を受けて、児童生徒に学力をしっかりと保障し、学力向上を進めることが大きな課題となった。そのため、「1時間完結型授業・板書の構造化・板書とノート一体化」といった大分県の授業スタンダードの普及や、学力向上支援教員を指名・配置して、指導力のある教員に学ぶ体制の整備に努めている。

加えて、いじめの認知件数が依然として憂慮すべき状況であること、暴力行為が増加傾向であることを背景として、校長のリーダーシップのもとチームで取り組む生徒指導体制・教育相談体制の充実、警察や児童相談所などの関係機関、家庭や地域、青少年健全育成団体と連携した支援の強化・充実の方向性が示されており、今日的教育課題に対応し得る教員養成する教職実践コースに対する期待も大きい。

教職大学院進学希望調査の結果(現職教員)



教職大学院への進学を①希望する

	20代			30代			40代			50代			希望者 合計
	回答者数	希望者数	希望率	回答者数	希望者数	希望率	回答者数	希望者数	希望率	回答者数	希望者数	希望率	
小学校	303	29	9.6%	352	32	9.1%	804	62	7.7%	1347	33	2.4%	2806人
中学校	137	16	11.7%	192	21	10.9%	397	34	8.6%	527	19	3.6%	1253人
特別支援	46	5	10.9%	88	9	10.2%	211	16	7.6%	139	8	5.8%	484人
全体	486	50	10.3%	632	62	9.8%	1412	112	7.9%	2013	60	3.0%	4543人

進学希望コース内訳

	小学校			中学校			特別支援			希望者 合計			
	20代	30代	40代	20代	30代	40代	20代	30代	40代		50代		
計	29	32	62	33	16	21	34	19	5	9	16	8	284人
学校経営	2	2	19	16	0	1	6	12	1	0	3	3	65人
教職実践	25	24	35	14	15	16	24	5	3	7	10	5	183人
未定	2	6	8	3	1	4	4	2	1	2	3	0	36人

教職大学院に対する要望に関する調査

以下の質問の該当する回答番号一つに○を付けてください。「複数回答可」とある場合は、該当する回答番号すべてに○を付けてください。

問1 あなたが所属する学校の校種と年齢についてお尋ねします。

校種： ①小学校 ②中学校 ③高等学校 ④特別支援学校 ⑤その他（ ）

年齢： ①20歳代 ②30歳代 ③40歳代 ④50歳代以上

問2 教職大学院（専門職学位課程）の概要について理解できましたか。

①よくできた ②だいたいできた ③あまりできなかった

④まったくできなかった

問3-1 あなたは大分大学の教職大学院への進学を希望しますか。

①希望する ②希望しない ③どちらともいえない

問3-2 問3-1で②または③と回答された方にお尋ねします。その理由についてお聞かせください。

[]

問4 問3-1で①と答えた方にお尋ねします。進学を希望するコースどれか一つに○を付けてください。未定の場合は未定に○を付けてください。

①学校経営コース ②教職実践コース ③未定

問5-1 県からの研修派遣定数の関係で派遣者から外れた場合でも入学したいと考えますか。

①したい ②したくない ③どちらともいえない

問5-2 問5-1で②または③と回答された方にお尋ねします。その理由についてお聞かせください。

[]

裏面につづく

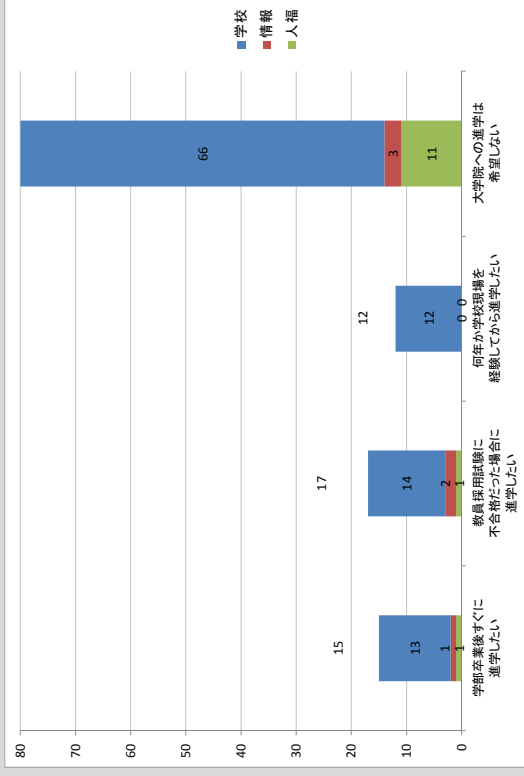
問6 どのような授業科目を希望されますか。(複数回答可)

- ①教育課程編成の理論と実践
- ②特色あるカリキュラムづくりの理論と実践
- ③授業の指導計画と教材研究の演習
- ④授業での学習支援と指導法に関する事例分析
- ⑤児童生徒の問題行動や規範意識に関する事例研究
- ⑥子ども支援の実践研究
- ⑦学校組織マネジメントの実践演習
- ⑧児童生徒を活かす学級経営の実践演習
- ⑨教員の社会的役割と自己啓発
- ⑩教員のための人権教育の理論と方法
- ⑪教育法規の解釈・運用に関する実践研究
- ⑫学校危機管理の理論とプログラム開発
- ⑬教職員の人材育成に関する理論とプログラム開発
- ⑭教材開発演習
- ⑮すべての個性を活かす教育環境の構成
- ⑯地域における教育課題の探究
- ⑰その他 ()

ご協力ありがとうございました。

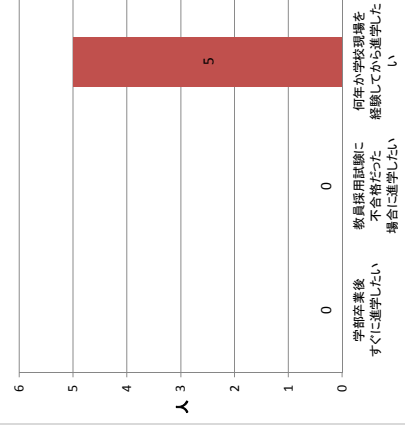
教職大学院等進学希望調査の結果(学部3年次)

	学部卒業後すぐに進学したい	教員採用試験に不合格だった場合に進学したい	何年か学校現場を経験してから進学したい	大学院への進学は希望しない
学校	13	14	12	66
情報	1	2	0	3
人福	1	1	0	11
合計	15	17	12	80

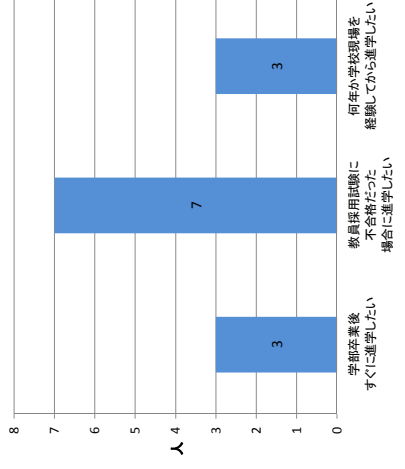


進学希望者のうち教職大学院進学希望者

学校経営コース



教職実践コース



	学部卒業後すぐに進学したい	教員採用試験に不合格だった場合に進学したい	何年か学校現場を経験してから進学したい	進学希望者合計
学校経営コース	0	0	5	5
教職実践コース	3	7	3	13

大学院に関する調査【3年生】

大分大学では大学院教育学研究科の中に、修士課程とは別に、教職大学院（専門職学位課程）を平成28年4月に設置することを計画しています。また、それに併せて、現在の修士課程の学校教育コースと教科教育コースを新たな「学校教育コース」として統合する予定です（臨床心理学コースは現状のまま残ります）。これらの事柄についての説明を受けた後、以下の問いにお答えください。

まず、あなた自身のことについてお尋ねします。該当するものに○を付けてください。

問1. あなたはどのコース・課程に所属していますか。

- ①発達教育コース ②特別支援教育コース ③教科教育コース
④情報社会文化課程 ⑤人間福祉科学課程

問2. あなたは教職に就くことを希望していますか。

- ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない

問3. あなたは今年夏に実施される教員採用試験を受験しますか。

- ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない

次に、大学院に関連してお尋ねします。該当するものに○を付けてください。

問4. 大学院の概要について理解できましたか。

- ①よくできた ②だいたいできた ③あまりできなかった ④まったくできなかった

問5. あなたは大学院への進学を希望しますか。

- ①学部卒業後すぐに進学したい ②何年か学校現場を経験してから進学したい
③教員採用試験に不合格だった場合に進学したい ④大学院への進学は希望しない

問 6. 問 5 で①か②か③と答えた方にお尋ねします。希望する進学先をお答えください。

①修士課程の新たな「学校教育コース」へ進学したい

②修士課程の「臨床心理学コース」へ進学したい

③教職大学院の「学校経営コース」に進学したい

④教職大学院の「教職実践コース」に進学したい

問 7. 問 5 で④と答えた方にお尋ねします。その理由についてお答えください。

()